

# 令和元（2019）年 12 月市長定例記者会見の概要と質疑応答

令和元年 12 月 4 日（水）  
午前 11 時～午後 0 時 10 分  
柏崎市役所大会議室

## 1 発表事項

### （1）ICT を活用して住民異動届が簡単になりますー市民課窓口業務を民間委託

（主管：市民課）

令和 2（2020）年 1 月 4 日（土曜日）に異動受付支援システムによる転入、転出、転居に伴う異動届の手続きをスタートします。このシステムの導入は、東京都渋谷区に次いで全国 2 番目、県内では初めてです。これまでは、転入の際、市民の方が窓口で転出証明書を持って来庁され、それを元に手書きで転入届を書いていただいたところですが、手書き作業をすることなく、職員が転出証明書を OCR で読み込んで、市民の方が電子サインをするだけで手続きが完了するものです。この OCR を導入することで市民の方をお待たせする時間が 12 分ほど短くなります。そして委託費は年額で 7,700 万円強です。従来のコストが約 7,800 万円強ですので、100 万円ほどコストが削減できます。

（以下、スクリーンにて異動受付支援システムデモンストレーション）

**富士ゼロックスシステムサービス株式会社 社員：**本システムの導入で、これまで 8 分を要していた届書の記載をしなくて済むといった改善が見込まれています。仕組みは、窓口で市民の方から転出証明書をお預かりして、OCR で読み込みます。読み込んだ後、文字を正確に入力画面に反映し、異動の届書を作成します。

通常ですと、その正確な届書の代わりに、窓口では職員がヒアリングをしてシステムに入力をします。今回のシステム導入により、ヒアリングの項目が全て画面に表示されるので、手続きの案内漏れがなくなり、事務の効率化と正確性が向上すると考えています。システムの入力が終わったら、プレビュー画面が表示されます。市民の方から、窓口にあるタブレットに表示された届書の内容を確認いただいた後、電子署名をいただきます。これで異動の手続きの処理が完了します。従来、この後の手続きでも、何度も署名をする必要がありましたが、システムの設定により、電子署名を各申請書に反映することが可能です。以上で届書の処理は終わります。

### （2）令和元（2019）年度事業峻別の評価結果および職員による業務改善提案

（主管：人事課）

1 点目の事業峻別は、昨年度初めて取り組み、金額にして約 2 億円部分の事業の見直しを行い、それを財源として子どもたちの教育環境の整備、指導補助員などの充実、そして介護人材への夜勤手当への待遇改善に活用しているところです。しかしまだ業務の在り方、行われ方という部分で改善すべき要素があると思われた 57 の事務事業のうち、54 の事業について政策的なアドバイザー契約を結んでいる経営共創基盤からも助言をいただきながら、見直しを行いました。

2 点目は指定管理事業者および第三セクターです。指定管理者制度の在り方や、直営に戻すこと、本当に指定管理者制度が柏崎にふさわしいかということも含めて、それぞれの団体の方のご意見を伺ったところです。

### **(3) 今後の備えに向けて台風 15 号被害調査結果を報告－新潟工科大学で風防災セミナーを開催**

(主管：建築住宅課、防災・原子力課)

今年 9 月の台風 15 号では、千葉県を中心に大きな被害がありました。その調査団の一員として参加された新潟工科大学の富永先生に、建設業協会や建築士協会、市民の方などを対象に報告会を開催していただきます。新潟工科大学にある風洞実験室の見学を通じて、風の力がいかに大きなもので、恐ろしいものであるのかということも体感していただけるものと考えています。柏崎も過去に風による大きな被害を受けています。皆さんからもお越しいただき、今年のうち台風 15 号の被害をもう一度確認して、風による被害をどのように防いでいったらよいか、どうしたら被害を最小限に治めることができるかといったことを富永先生のご報告から学んでいただきたいと思います。

### **(4) 柏崎市第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略案に意見を募集－12 月 9 日からパブリックコメントの募集スタート**

(主管：企画政策課)

柏崎市第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略案の基本的な視点は、量から質の時代が変わってきているということ。それから新しい流れとして Society5.0、それから SDGs といった考え方を捉えながら進めていくというものです。最重点目標には、人口減少を食い止め、定住人口を 1 人でも多く増やしていくという点から、若者と女性に絞り込み、例えば公立保育園における年度途中の入園希望児童数の入園割合を 5 年以内に 100 パーセントにする。若者の現状では市内高等学校を卒業して市内に就職している方が 50 パーセントを切っています。これを 65 パーセントぐらいまで上げていきたいと考えています。

## **(5) 雪に強いまち柏崎に向けて今年度の道路除雪計画を策定**

(主管：維持管理課)

これまでから大幅に変更されることはありません。オペレーターの高齢化が進んでいることから、道路除雪に関してはオペレーターの確保が課題です。柏崎市内の除雪経費は過去5年間の平均、市道の部分だけで約4億5千万円です。一昨年は約8億円でした。それに加えて県道の部分が年間3億から4億円前後ですので、少ない年でも7、8億円、多い年は12、13億円の除雪経費を要します。1年近く前、原子力災害を想定した夜間、降雪時の避難経路の確認を行い、その後7月23日に原田防災担当大臣から視察をいただきまして、この雪道の避難経路確保のための支援を要望させていただきました。今後、少し改善されると考えています。

## **(6) ぎおん柏崎まつり 2020 海の大花火大会カレンダー限定販売**

(主管：商業観光課)

ぎおん柏崎まつりの2020海の大花火大会カレンダーがここに出来上がりました。尺玉の同時打上の美しいポスター、夕闇の中、少し明るさが残る中での花火の卓上カレンダーができました。ぜひご利用ください。

## **2 質疑応答**

### **◎ICTを活用した市民課窓口業務に関する質問**

**記者：ICTを活用した市民課窓口業務は住民異動届のみか。どのように簡略化されるのか。**

市民課：今回のシステム導入は、転入届と同時に住民票を取得されたい方においては一緒に交付申請書も作成されますが、住民票の発行申請のみの場合は従来通りです。今後もICTの活用を検討してまいります。

市長：恐らく今後マイナンバーカードを持ってきていただくというなかたちで窓口業務でも簡略化できるようになるのではないかと思います。現段階ではまだそこまでのシステムではありません。

**記者：どの部分で人員が削減できているのか。**

市民課：窓口職員の人件費の他、教育や管理に掛かる経費全部で約7,800万円です。これらが今後は掛からなくなり、新たに委託費として約7,700万円となることから、人件費だけということではないです。

**記者：今まで16人の職員が対応していたところが、民間委託により、正職員の公務員だけの対応になるのか、それとも民間委託によって全く違う人員による対応となるのか。**

市民課：現在の非常勤職員、12人の内の8人が1月からカシックスの社員として窓口業務を担当する予算となっています。

**記者：ICTの導入の経緯は。**

市長：行政はなるべく最小化し、かつサービスは大きいもの、最強化するべきだという新年度の予算編成方針を踏まえ、その一環として担当課が今回のシステムを提案してきたということです。

**記者：全国で2番目ということだが、この業務に関して何かハードルがあって全国はあまり進んでないのか。そのハードルを超えるものが柏崎に何かあったのか。**

市長：やはり経費の部分でなかなか踏み切れない自治体が多いのだらうと思います。あと、実際に市民の方々へのサービスとしてはスピード感ということで向上するわけで、そういった部分に、行政はなかなか気付かないという部分があるのではないかと思います。

### **◎カシックスの安定ヨウ素剤配布システムに関する質問**

**記者：カシックスのヨウ素剤配布システムってどんなものか。**

防災・原子力課：PAZにおいて安定ヨウ素剤の事前配布を行います。その時の受付業務の情

報として、住民情報の管理や配布の管理をしています。

市長：全国の原発立地点の自治体の中のいくつかに使っていただいています。

### ◎事業峻別に関する質問

**記者：市長の中ではこの2年間で大きな部分での峻別というのはもう終わったという認識か、まだやるべき点があるという認識か。**

市長：これは終わらせてはいけないことだろうと思うんですよね。ここ数年で始めた新しい事業もあるわけです。その事業も始めたからといってずっと続くというわけではありません。やはりこれは不断の見直しがやはり必要なんだろうと考えています。どのような形式で事業峻別を継続するかということは、まだ考えていません。

**記者：今回具体的に6事業所に対してどのような改善を行うのか。**

市長：例えばかしわざき振興財団を指定管理者として選んだところはいくつかありますが、振興財団に指定管理をしていただくよりも、直営に戻したほうがコスト的にもいいのではないかとということも含めた検討を行ってきたところです。指定管理団体の在り方そのものに踏み込むような内容ではありません。

### ◎道路除雪計画に関する質問

**記者：防災担当大臣の視察の際に国からの支援を要請され、少し改善されるとのことだが、具体的に何か話が出ているのか。**

市長：電光掲示板や退避帯の設置に関する予算の提案はいただいているところです。目に見えた進展があるということではないが、少なくとも関心を持っていただき始めたと思っています。

## ◎市長の再出馬に関する質問

**記者：この12月で市長就任3年となり、任期は残り1年だが、2期目を目指す考えは。**

市長：正直に申し上げて、半分は継続してやらせていただきたいという意欲は持っています。しかしあと半分は、事業峻別や原子力発電所に対する私の考え方を含め、市民の方々からご批判をいただいているのも事実です。継続して担わせていただいているものかどうなのかという部分も含めた自分自身の意欲と、また周囲のお考えや声というものを含めると、今ここで次期も出させていただくと決める段階にはありません。

**記者：出馬するかしないかは、どのタイミングで、どのようにして出されるか。**

市長：自分の後援会の方々がいらっしゃる場で、自分の意思を表明するという方向かなと思います。

**記者：時期については、もう少し先になるということか。**

市長：今、市長としてやらなければならないことは、令和2年度予算を組み立てて、議会に諮りをし、承認をいただくということがまず第一の仕事だろうと思いますので、それ以降だろうと思っています。

**記者：これまで3年間を振り返って、就任後の成果は。**

市長：原子力発電所の問題は、立候補以前からの自分の考えを市民にお伝えをして、一定の評価をするところまではたどり着いたと思います。また大学や東本町ショッピングモールフォンジェについては、議会の方々に正直にお諮りした上で、私の方向性を決めて、それに基づいてご自分たちの中で新たな方策を見出され、一定の良い成果を出されています。なんとか私共もできる限りの支援をしながら今頑張っているところです。じょんのび村は、今年度予算一千万を投じて、専門家からその経営立直しについてお願いしているところです。事業峻別も含めて、高柳や西山の方々にも厳しい状況だということを隠さずに正直にお伝え

してきました。何でもそうですけど、全て皆さんに報告してきたという部分を、あえて言えば私のスタイルだと思います。

**記者：事業峻別で、住民への事前説明が不足していたのではという批判を受けて何か改善は。**

市長：聞かなかったということは決してないと思うんです。今もう時代が早く動いている中で、ゆっくりものを考えて、その解決策を考えていたのではさらに悪くなってしまう。もしくはなくなってしまうというような危機感があるものですから、その時代感、スピード感というものも、やはり大事にしなければいけないのではないのかなと。ご批判はもちろん甘んじて受けるところです。

**記者：残り1年間、どのように市政を運営するのか。**

市長：私なりに3年間体力の限りやってきたつもりですが残り1年間、頑張っていきたいと思います。また危険なものは危険だと、皆さんにお伝えしていきたいと思います。それに対して、もう少し人の意見に耳を傾けていかなければいけないと思いますが、さらに率直な意見交換をさせていただきたい、スピード感を持って物事を決していきたいと思っています。

### ◎東京電力のファクス誤送信に関する質問

**記者：先日、東京電力の当直訓練の際に、訓練用と書かれてないファクスが、誤って規制庁に送られてしまった件を市長はどのように受け止めているか。**

市長：誤りは誤りで遺憾なことであるには間違いありませんが、以前にもファクス送信先を登録していたものを間違ってしまったというのがありました。そういったファクスが今時のシステムなのかどうかということも含めて、東京電力には常に正確な、そして最新の伝達方法というものを考えてもらいたいと思っています。

以上